

退任のご挨拶

役員退任ご挨拶

前常任理事

林 宏 一



6月17日の第149回北海道医師会定時代議員会をもって、私の北海道医師会常任理事としての任期を何とか2期4年間の短期間(他の常任理事の方々と比べて)ではありましたが、全うすることができました。

地域福祉担当部長として副部長の水谷医療安全・医事法制部長、部員の伊藤地域医療部長および私の直属の上司となる藤原副会長の3人の先生方には、介護保険主治医意見書講習会の講師として大変お忙しい中を地方に出張講演していただき、この誌面を借りて御礼申し上げます。

振り返って1期目は、折しも有床診療所における管理栄養士の設置義務がとりざたされた時期で、これが決定されると道内の地方の有床診療所の経営が人員基準の面からも立ち行かなくなるとのことで積極的に反対運動に取り組みました。結果として、従前通りの栄養士のみでの入院食事管理が可能と決着したことは単に安堵するだけでなく、地域包括ケアシステムでの有床診療所の今後のあり方でも、その有用性が再認識され、本年4月の医療法施行規則の改正での、届出による有床診療所の開設要件緩和へと繋がって行ったと考えられます。

有床診療所が全く消滅してしまう前に厚生労働省が危機感を持ったか否かは定かではありませんが、急に施行規則の改正を行ったことは、その現場に従事する私にとっても、また日本医師会有床診療所委員会のメンバーにとっても青天の霹靂のごとくの驚きでありました。

ところで、北海道医師会の地域福祉部は、介護保険制度に関わるいろいろな問題を道庁の保健福祉部の方々と極めて密着かつ頻回に会合を重ねる必要があります。当初、慣れるまでこの対応には、時間的にもかなりつらいものがありました。

今回、私の後任として水谷常任理事が地域福祉部担当部長として采配を振るわれることは、何とも心強いことと思っています。先生の御活躍を心より願っております。

北海道医師会は日本医師会と都市医師会の間に挟

まって、何とも微妙な立場であり、とりわけ札幌市医師会とは複雑であるように感じましたが、私のように旭川より出向いている者にとって、その立ち位置がなかなか理解できず、道医師会の事務局の方々にも大変なご苦勞をおかけしましたことを申し訳なく思っています。

道医師会事務局の職員の方々には、本当に道警をはじめ他の多くの機関との折衝に、手足のごとく動いていただき、心より感謝申し上げます。

四国4県より広大な面積の北海道では、札幌圏と地方とであまりにも全ての状況が異なります。国の一律な人員基準を北海道の地方に当てはめると、多くの施設が今後運営不能となりそうです。看護師をはじめ、介護職員の確保は焦眉の急で、単に医師会のみの問題ではなく、地方行政や地域選出議員への積極的な啓発が何より必要と考えられます。

来年は医療保険と介護保険の同時改定が行われますが、すでに7月20日の臨時閣議で30年度予算の概算要求基準を了解しております。社会保障関係費の自然増は6,300億円を見込んではいりますが、予算編成では自然増の伸びを圧縮し、1,300億円の削減をめぐる具体策の取りまとめを行うとされる。したがって厚労省は高額療養費の見直し、後期高齢者の保険料軽減特例見直し、入院時居住費の見直し、介護保険の3割負担導入、福祉用具貸与の見直し、介護納付金の総報酬割の拡充、高額介護サービス費の見直しおよび薬価の引き下げを検討すると報道されています。

同時改定は6年ごとではありますが、医療と介護の一体化はますます緊密なものとなってきています。昨今、開業医にとって規模の大小に関わらず、医師が医療の世界のみに目を向けている時代はすでに終わったと考えられます。

医療が、予防を含め地域医療はもちろん、地域福祉に積極的に関与し、共生社会の構築を地域包括ケアシステムというツールを用いて目指していく。国はそう考えていると私には推察できますが、都市医師会長の中にはそのことを理解されていない方もおられ、道医師会の舵取りもなかなか大変とつくづく感じております。

北海道医師会の顔でもある長瀬会長は、常任理事や医師会職員の全員が驚愕する明瞭な頭脳と体力を維持され、日ごとの会合を積極的にこなされておられますが、何とか少しでも楽をさせてあげたいと心底思うものの、会長に代わる人材が現れないことには解決できないことであり、先に現場を去る私にとって、会長のご健康を心から願わずにはいられません。本当に4年間の御指導を深謝申し上げます。

理事退任のご挨拶

前理事

佐藤 貢



このたび、北海道医師会理事を退任することになりました。私は中央ブロック代表として齋藤淵前理事の後、2015年6月より理事を拝命しました。理事としての業務は、日本医師会の動静と北海道医師会の方針決定に参加することです。長瀬会長をはじめ、副会長、常任理事、各先生達の、日本医師会での活動、動向、情報を拝聴出来たことは、大変有意義な経験となりました。

その中で、私なりに懸念している諸問題を羅列してみたいと思います。

地域医療構想、新専門医制度、地域包括ケアシステム、救急医療体制、18年度医療介護同時改定、勤務医の勤務環境改善、女性医師等への支援、高齢社会への対応、若手医師への医師会活動参加への要請、などなど…。

毎回、理事会、代議員会、都市医師会長協議会等参加していると、広い北海道各地から、多忙のなか出席している先生方、本当にお疲れ様です。私は千歳市ですので約1時間ほどで参加できたことは幸いでした。

今年度も千歳医師会長、代議員として北海道医師会の活動に参加していきたいと思っております。新たに発足しました、長瀬会長、役員の方、そして道医師会事務局のみなさん、道民そして会員のために、さらなるご指導を心より期待しております。

理事退任のご挨拶

前理事

倉増 秀昭



空知ブロックより推薦を頂き3期6年北海道医師会理事を務めさせていただきました。

その間、日本医師会代議員や日本医師会国際保健委員会委員をさせていただきました。大変良い経験となりました。

これからも一会員として医師会に協力していきたいと思っております。

皆さま、6年間本当にありがとうございました。

北海道医師会 理事退任のご挨拶

前理事

古屋 聖 児



今回、諸般の事情により北海道医師会理事を退任することになりました。

私は、平成18年に北見ブロックの代表として北海道医師会理事に信任されました。それから約11年間、北海道医師会理事会の末席を汚したわけですが、今思うと、時の流れは早いものだと感じます。

1回目に出席した北海道医師会理事会で、恒例の新理事挨拶を指名された私は「新米の理事で、右も左も分かりませんので、皆様のご指導をお願いします」と軽い社交辞令を述べました。すると、当時の北海道医師会長の飯塚弘志先生が座長席から「新人であろうが、新米であろうが、どしどし仕事をしてもらいます」と言われました。その一言で、浮ついた気持ちに冷水を浴びせられたような私は、理事というのは名誉職ではなく、会員のために奉仕する役職だということを知りました。ほろ苦い記憶です。

ところで、私が土曜日午後4時からの定例理事会に出席するためには、飛行機の便が悪いため、前日と当日の二日間ホテルに宿泊しなければなりません。冬期間は雪のため、飛行機が欠航し、帰宅が1日遅れることも時々ありました。そんな中一番の思い出は、平成25年の北海道医師会長選挙のことです。前日診療を臨時休診して、大荒れの吹雪の中札幌に出かけました。結局、この時は3日間、ホテルに缶詰めになりました。その時の高揚感と疲労感、今でも記憶に残っています。

さて、私が11年間理事の仕事何とか全うできたのは、会長はじめ理事役員のご支援とご鞭撻のおかげと感謝しています。中でも、宮本慎一先生には、さまざまな場面でご指導を受けたことに心から感謝を申し上げます。

また、理事になったために、今まで縁のなかった日本の医療の問題点や医療政策、および医療経営などを勉強しなければなりませんでした。このことは私の人生の奇貨になりました。

最後に、長瀬清会長をはじめ理事会役員の方のご健勝と、北海道医師会の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。